

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

医者 の 街

大代南 星 繁子

我が家には明治三十九年生まれ、の義母が居ります。今でも元気で週五日のデイサービスに通っています。そんな達者な母も幾度か挫折があり入院を繰り返した事がありました。その都度回復し現在に至っています。デイサービスの長寿番付では横綱で名前が貼り出されて居ります。そんな母が五年前のこと、首が痛くて動けないと云うので車椅子で平山平治様宅と平山豆腐店との間の側溝の上を通って藤野整形に行く途中、急に不機嫌になり「人を馬鹿にして、どこに連れて行くの。ここは東京でないの」と車椅子から降りようとする、私は困って昔の廻りの様子を話し現在地を説明したら、唯一変わらない孫の家を見て安心したのか落ちつき始めた。私はここは歯医者さん・眼科・小児科・内科と一つ一つ説明したら「ああ大代も医者の街になって良かったね、バスに乗って医者に行かなくてもいいんだね。便利になったものだ」としみじみ話していた。

九十才を過ぎ、首が痛いと言ったのも痴呆の病状と診断され精神科へとアドバイスを受けた程なのに、それでも地域を考え生活を思う素晴らしさに、さすが明治生まれと感心させられた。それから七年も経った今でも夜中に

「教育勅語」朕思うにと始まる、半分位迄行くと「後は忘れましうおぼし

あいさつは心のふれあい

出会った人と

あいさつしましう

ちゃん昔は頭が良かったのでしょね」と私が云うと「いいえそれ程でもありません」と白々と夜が明ける事もある。こんな先人は昔は多かった。大代からは五名の町会議員が出て過疎の大代を何とか活気づけようと自衛隊の誘致・東小学校の開校など次々と事業を展開し、それが土台となって現在の大代があるのだと思う。医者 の 街 となった今、先人の思いを大切に進出する企業に協力しながら、バスに乗らずに医者に行ける幸せを忘れてはならないと私は思っています。

春の火災予防運動

第六分団長 桜田 栄松

今年も空気が乾燥し風が強火災が発生しやすい時期にあわせ左記により運動を実施することになりました。

期 間 三月一日より三月七日まで

広報活動初日・中日・最終日と夜間防災放送装置により注意を呼びかけます。

重点事項はたばこの吸いがらの始末、ガスコンロを使用中はそばから離れない離れる時は必ず消すこと、ストーブに給油の際は必ず消すこと、近くには燃えやすい物は置かない。また家の廻りや軒下など人目に付きやすい所には物を置かないように常に注意すること。昨年の市内での火災発生原因は放火、たばこの不始末、ガスコンロ使用放置、ストーブの取り扱い不良の順です。

※ 昨年正月当地区内でも一件の不審

火がありました。今年こそ皆様のご協力が無火災の明るく住みよい大代の街づくりのため団員一同努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

地震車の試乗体験訓練について

大代地区婦人防火クラブ

会 長 後藤 重子

表記について左記により行います。必ず来ると云われる地震災害に対して用意周到の一助に春休みお子様と一緒に体験して頂ければと企画しました。折角の機会です、皆様のご参加をお待ちしております。

日時 平成十六年三月二十八日(日)

午前九時三十分より十一時迄

場所 大代緩衝緑地公園広場

詳しい訓練内容は各家庭にチラシにてお知らせ致します。

俳句

大代西 松浦 富男

雪吊りの千尋の縄の縊り強し

路地裏に一途に生きて去年今年

この年も波乱含みか初暦

湯治場のはだか同志の御慶かな

煤逃げの魚籠の重さを計りけり

笠神地区 本郷 勝子

露天湯や心新たに冬銀河

花芽抱き葉開きさせしシクラメン

雁群れて帯びになあれと童歌

イラクへと先遣隊の牡丹雪

義兄見舞う心重きて牡丹雪

希望に生きる

大代東 本郷 新治

希望は人生の光明であり、私達の生きる力の源泉です。希望のない人生は暗黒であり、そこには生活の向上も前進もありません。私達は生活や仕事について希望をもちましよう、希望は私達を勇気づけ、鼓舞し毎日の仕事や生活の苦勞、不愉快、わずらわしさを乗り越えさせてくれます。しかし希望を失ってしまうと仕事や生活の苦しさは二倍の力をもって、私達の心を苦しめることとなります。そこで私達が自分の生活や仕事を明るく発展させていくためには、まず何よりも明るい希望をもつことが必要です。私達がいつも明るい希望をもって、毎日の仕事にあたりついていると、その仕事には、そばから見ても楽しくなるような活気と張りがあるふれてきます。希望に生きる人間の心や活気がそのやっついている事にのりうつつつてくるのです。どんな仕事でも、そばからみているに明るく楽しい感じを与えるようになれば、そこには明るい楽しい活気があるふれて誰でも、もうそれだけでその人間を信用したり好きになつたりするものです。特に仕事に明るい活気があることは、その仕事の発展を約束してくれることでしょう。

祝儀 お見舞いは

三千元を限度にし

お返し物はしな

いようにお互い

気を配りま

シベリヤの想い

23

「前号に続く」

大代南 後藤 清一

最も厳しく恐ろしい二月もどうにか越せた。何回目の冬だろう。四月に入ると寒さも大分和らいでくる。そんな頃だった関東軍の組織のまま満州から連れてこられた我々の大隊は寸断されいくつかのラーゲルに分散される事になった。俺達は何処につれて行かれるのか説明など全くない。不安で仕方なかった。シベリヤと言えば想いは皆同じ酷寒の地だ、日本人の為と云って別のシベリヤがある訳でない。浮慮は零下何十度の中で黙ってただ働けたと云うのか、何時になったら日本に帰るのか親達は生きているのか、家は家族は、返信のない俺には極度の不安を担いながら四回目の冬を迎えた。

気力も体力も毎日に衰え望郷の念だけでも考えられない、今年もかえれないのか、帰れるのだろうか、矢張り俺達も白樺の肥やし組になるのかと、皆やけくそな振る舞いがなんとも可哀相である。バム鉄道（第二シベリヤ鉄道）・幹線道路・その他の工事も予定より何ヶ月も早く開通した。後の工事も期限内に完工しますよ、何しろ日本人はよく働く、並の働き者とは違います。中央の上司にはこんな報告をしているのだ。馬鹿野郎何を云うか、馬畜のように働かせたのは誰だ。ロスケ

共め何の正当な理由もなく、俺達の夢のある青春を奪っておき乍ら……。傷病者、虚弱者はすぐにも日本に帰せ、ソ連は人道上手前慌てて帰国させた

がその人達の体内には生と死が、シベリヤの環境が家まで追いかけて、帰宅して直ぐ死んだものが多かったと聞く、暫くは健康の回復はなかった。この年寒さも次第に去り凌ぎ易い節となった。やがてメーデーがやってくる。この日は政治将校の指令で大方の作業は休日となった。皆飛び上がり万歳三唱で盛り上がった。しかし内容は喜べるものではなかった。午前は政治部員のデモクラシーの講義、午後は自由な休養の筈だが、これが問題で午後も受講した者は早期帰国の好条件の目安になるとかそんなデマも信じ皆一斉になだれこんだ。意味のないメーデーの休日となったのである。短い春も過ぎ、暑い夏も一緒に深まり、九月に入ってまもない書きさがり、ロスケの週番兵が二人夜勤のため、仮眠中の俺達に三人程手伝ってくれ、糧秣受領に町まで行くのだと大声でどなっている。食料かそして町までか、暗黙の了解で身仕度をすするトラックの荷台にすがり、廻りの景色を遠望しながら二料程走る。途中石灰の発破作業で飛来した岩石が僕の手甲を直撃する。その出血と痛みで病院に戻り骨折で入院、働らかざる者は喰うべからず。かカムダ飯喰いの邪魔者とか、シベリヤの九月は既に冬の始ま

りを告げている。そんな時ラーゲル内は蜂の巣をついたような異様な騒ぎになった。復員だ帰れるんだ、遅くとも年末までには全員帰国と云う噂が雷のように走った。この事に皆は泣いて喜んだ。落葉した晩秋の森も灰色の太陽に隠れて音もなく静かだった。

文芸短評

大代西 藤田 遊子

『美術館の白き空間時計草』阿部風々子
中七と季語が三次元を創り、幾何学的想起に読者を引き込む大作。絶讃。

昨年第十回壺の碑全国俳句大会に於いて特選第一席を得た。この道三十余年一徹研鑽を続ける謙虚な姿を称賛。

『自転車白きリボンや春の風』遊子

短歌

大代南 本郷 貞子

朝々に炊きし籠の飯恋うは

文明も貧しきに似ると笑いぬ

茶碗すぐに洗わぬ孫ら叱りしが

この頃は分かる若きらの鬱

大代西 小倉 紀美子

山茶花の散りし花びら庭敷きつめて

色をそえおり温もる思す

戦に行くのでないと自衛隊

派遣のニュースに涙こぼるる

大代西 佐藤 あさよ

癒えて九年経つも今になほ

心に残る気さくな医師を

ペランダの数ある鉢を

冬風もいとわず娘は手入に励む

大代地区公民館まつり

期間／三月十三日（土）から

十四日（日）まで

会場／大代地区公民館

☆ 作品展示

日時／十三日（土）午後一時～五時

十四日（日）午前九時～二時半

内容／手編み・手芸・華道・水墨画

切り絵・ちぎり絵など

☆ チャリティーダンスパーティー

日時／十三日（土）午後六時半～

八時半まで

☆ 舞台発表

日時／十四日（日）午前九時四十分～

午後一時まで

内容／セレモニー・カラオケ・着物着

付け・舞踊・少年剣道・大正琴

太極拳など

☆ 出店

日時／十四日（日）午前十時～

午後二時まで

内容／焼きそば・玉こんに・とん汁

問／大代地区公民館

電話三六四一八四四二

